

わたしのまちの **とっておき** 文化遺産！

犬山たび

古墳の巻



犬山市文化遺産活用実行委員会



犬山たび 古墳の巻

目次

東之宮古墳	三
東之宮神社	七
青塚古墳	八
妙感寺古墳	十二
上野古墳群	十三
上野遺跡	十四
白山神社古墳	十五
天道塚古墳	十七
蓮池古墳群	十八
犬山市内地図	十九、二十
犬山市内の遺跡年表	二十一
引用・参考文献一覧、たびにオススメの資料	二十二

たびの案内人

犬山モモ次郎



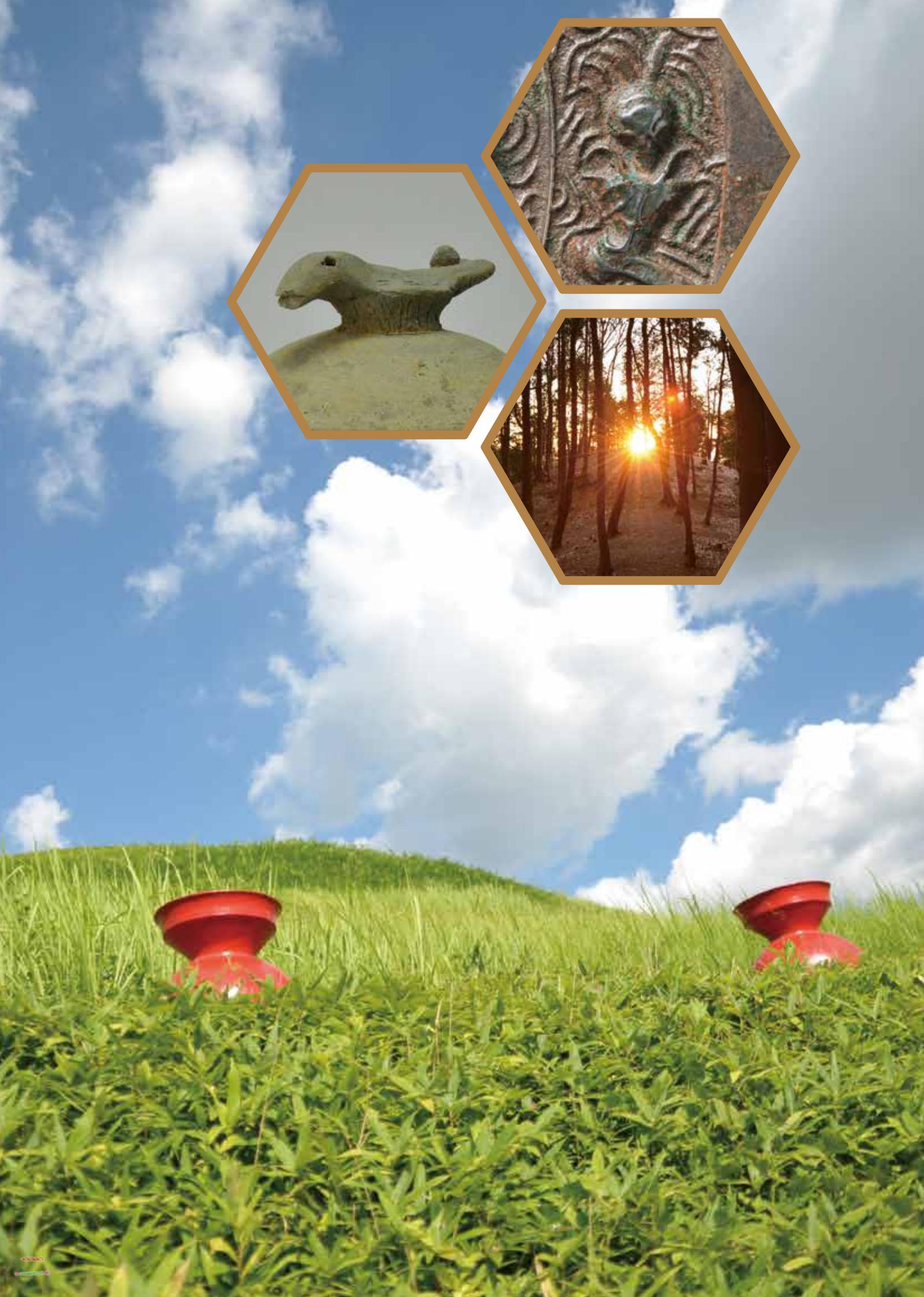
くぐくぐ
ススキギス丸



モモ次郎と仲良しの雉。好きな食べ物はカレーライス。畑で採れた野菜を一杯入れた栄養満点のカレーは絶品。

その昔、桃太郎と一緒に鬼退治に出かけた勇敢なわんこ。犬山の「田楽」が大好き。あつあつのうちに食べるのが好き。お肉は苦手。





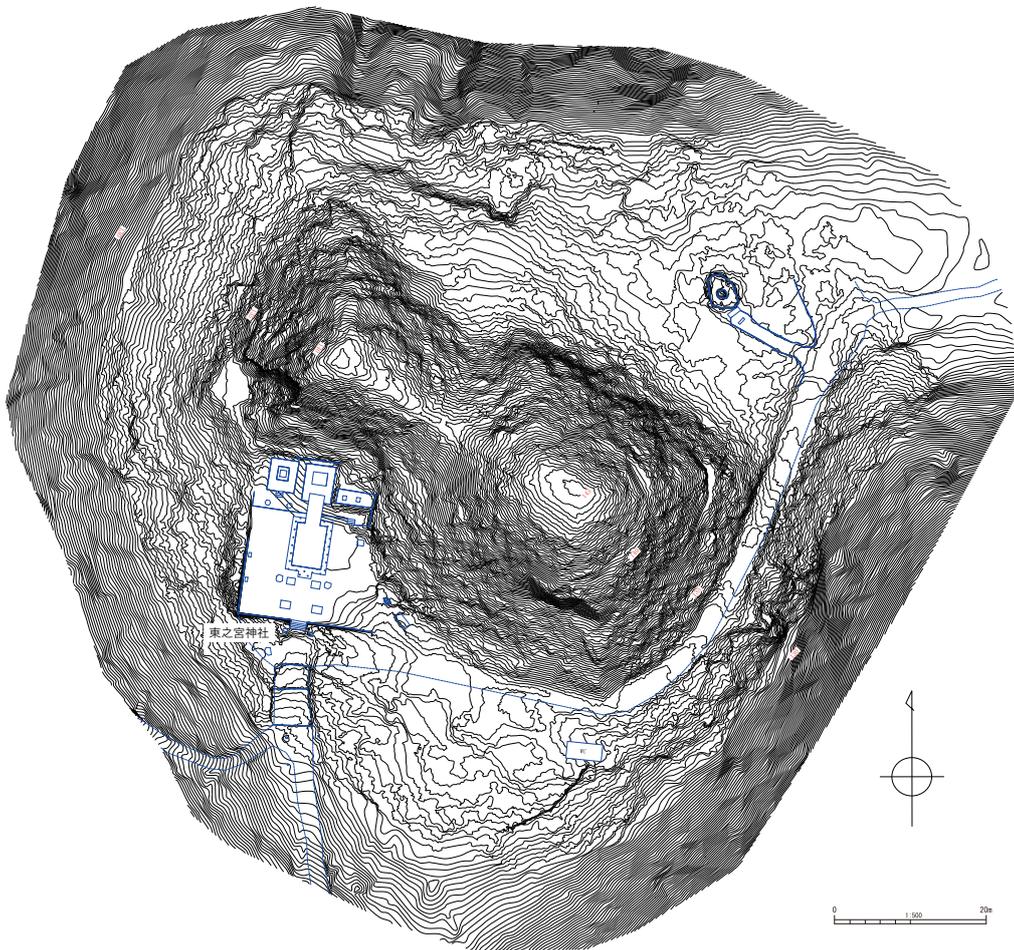
東之宮古墳

ひがしのみやこふん
白山平に鎮座する古の王



東之宮古墳とは

東之宮古墳は、標高145メートルの白山平山頂に位置し、古墳時代前期（3世紀後半）に造られた、木曾川中流域では最古・最大の前方後方墳です。大きさは墳長72メートル（基底石列での長さは68メートル）、後方部48×49メートル、後方部高さ8メートル、前方部幅43メートル、前方部高さ6メートルで、ほぼ完全な形で保存されています。





石室内部



天井石



発掘状況



現地説明会



発掘状況

発掘調査から 分かったこと

現在は山頂に東之宮神社があり、その背後の高まりが東之宮古墳の前方部となっています。また墳丘の周囲には幅広い平坦面があり、古墳造営時に山頂付近で人為的な大造成事業を実施した跡と考えられています。墳丘は全て人口の盛土で造られており、その表面全体に、チャートの岩石や河原石が葺かれていました。

昭和48年（1973）の発掘調査により、後方部中央には竪穴式石槨（長さ4.93メートル、幅1.0メートル、高さ1.2メートル）が存在し、板状の砂岩を多く使った石の部屋を作り、その上に大きな天井石が7枚置かれていたことなどが分かっています。その内部からは貴重な副葬品が数多く発見されています。蓋付きの容器である合子や腕輪形などの石製品7点、翡翠製勾玉や管玉が合計141点、三角縁神獸鏡（3面）を始め中国鏡（1面）や人物禽獸文鏡（4面）などを含めて11面、斧や槍・剣・刀・鏃などの鉄製品合わせて計219点です。

東之宮古墳は昭和50年（1975）に国史跡に指定され、出土遺物は昭和53年（1978）に重要文化財に指定されました。現在は京都国立博物館に保管され、展示公開されています。



神・獣・人の饗宴

東之宮古墳からは銅鏡が11面出土しています。これらの銅鏡にはそれぞれ異なる文様がうつし出されています。ある銅鏡には神や獣が鎮座し、また別の銅鏡には鳥の頭を持つ獣や人物が舞うかのごとく配されており、見る人をしばし空想の世界へと誘います。



三角縁唐草文帯三神二獣鏡 (さんかくぶちからくさもんたいさんしんにじゅうきょう)



三角縁波文帯三神三獣鏡 (さんかくぶちはんもんたいさんしんさんじゅうきょう)



斜縁同向式二神二獣鏡 (しゃえんどうこうしきにしんにじゅうきょう)



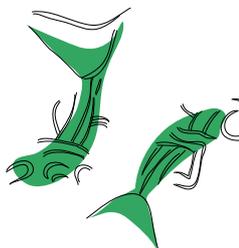
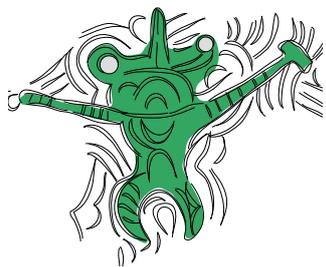
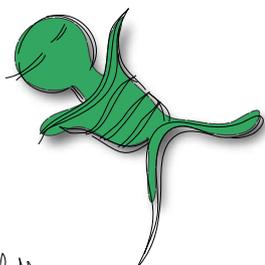


東之宮古墳の王の
「座右の鏡」人物禽獣文鏡

人物禽獣文鏡は、濃尾平野に築かれた古墳からのみ出土する倭製の鏡です。鏡の裏面には、人物とも獣ともつかない不思議な図像が配置されています。

東之宮古墳からは11面の鏡が出土していますが、内4面が人物禽獣文鏡でした。さらにその4面の内2面が、おそらくは意図的に破られたとみられる「破砕鏡」でした。

また、ほとんどの鏡が棺外の壁に立てかけられていたのに対し、唯一他の石製品と共に檜製の木箱に入れて王と共に棺内に埋葬されていたのも人物禽獣文鏡でした。東之宮古墳の王にとって、人物禽獣文鏡はどんな意味を持っていたのか―不思議な図像たちが投げかけてくる謎は、まだ解かれていません。



人物禽獣が描かれた文様



東之宮神社

東之宮古墳関連



東之宮神社 狛犬



湊川神社



白龍大明神 奥之院 石碑



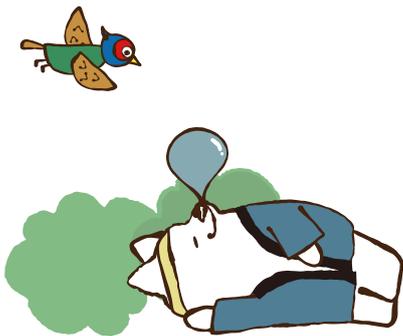
東之宮神社

東之宮神社は白山平山頂に鎮座する神社です。神社の北側には国指定史跡である東之宮古墳があります。

天文6年（1537）犬山城主の織田与次郎信康が現在の城山にあった針綱神社を遷座したところから始まり、慶長11年（1606）までその社地となっていました。

その後針綱神社の荒魂を祀る社として東之宮神社が創建されました。

現在は丸山地区氏子によって大切に祀られています。



青塚古墳

青草そよぐ王の塚

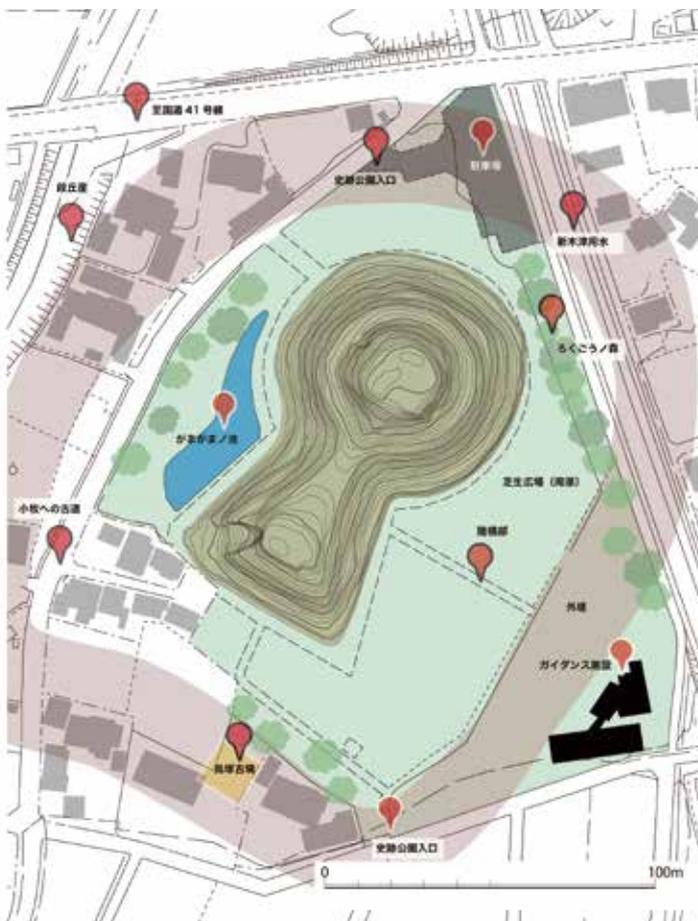
herica



青塚古墳の歴史

犬山市南部の楽田地区青塚に「青塚古墳」が存在しています。この場所は、犬山扇状地に発達した下位段丘堆積層の西端部に位置します。現在は隣町である大口町の水田面から、おおよそ2メートルほどの高さがあり、まさに段丘崖に造られた巨大古墳です。西側から見ると、台地上に山のように大きな前方後円墳が現れ、その姿はとも美しく感動的です。青塚古墳は、大縣神社の神社地として、現在まで地域の方々によって守られ残されてきました。そのため今日までとても美しい姿を留めてきたのです。古墳の名称は「青塚」「茶臼山」「王塚」などさまざまな呼称が伝わっていますが、現在では「青塚古墳」として国指定史跡に登録されています。

青塚古墳は昭和58年（1983）に国指定史跡として指定されました。犬山市による史跡整備を経て、平成12年（2000）に史跡公園としてオープンしました。



「瀬波里ブックレット.001」より



青塚、美しき 古代ニワの王

犬山市南部の楽田字青塚に所在する青塚古墳は、墳長123メートル、高さが約12メートルを誇る前方後円墳です。名古屋市熱田区にある断夫山古墳に続き、県下第2位の大さきで、昭和58年（1983）国指定史跡に指定されました。天正12年（1584）、小牧・長久手の戦いの際には秀吉陣営の砦としても利用されました。



青塚古墳の謎

青塚古墳は円と長方形が組み合わさった前方後円墳とよばれる形をしており、前方部に2段、後円部に3段の階段（段築）を持っています。築造当時、墳丘全面は河原石で覆われていたと考えられています。墳丘のまわりには、窪地状の堀（周濠）があり、古墳の東側には土橋状の通路があります。各段には壺形埴輪が約2メートル間隔で置かれていたと考えられています。また、前方部の上には埋葬施設と考えられる方形状の壇（方形壇）



▲壺形埴輪



壺形埴輪が並ぶ青塚古墳

が存在したことが発掘調査によって分かっています。また、方形埴の周囲には円筒埴輪が巡り、鍔形石製品3点が出土しています。

発掘調査の結果から青塚古墳は4世紀

中頃につくられたと考えられています。眠っている人物については、詳細なことは分かっていませんが、青塚古墳の約3・5キロメートル東にある尾張二宮大縣神社では、青塚古墳はこの大縣神社の御祭神の神裔大荒田命の墳墓であると伝えられています。



青塚古墳の守り人

青塚古墳の史跡公園としての整備が完了したのは平成12年（2000）のことです。それ以前は、青塚地区の人々が古墳の山焼きを行い、美しい青塚の景観を保ってきたそうです。また、現在も「青塚古墳を見守る会」の人々により草刈りなどの整備が行われています。地域の人が古くから守ってきた美しい青塚。いつまでも大切にしたい宝物です。



▲鍔形石製品



▲山焼き





整備前の青塚古墳（時期不明）



青塚古墳物語

青塚古墳は小牧・長久手の戦いの時に「青塚砦」として使われた事が分かっています。

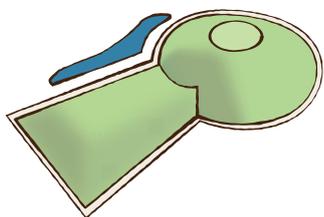
そのときに墳丘の一部が大きく変わってしまったと考えられています。特に後円部の上段は砦としての機能を優先させたため、本来の墳丘斜面を削って崖上の形状にしてみました。（右図の後円部上段）。現在は史跡整備に伴い、本来の形に復元し、砦の面影はありません。



青塚古墳との関係は？ おとなりさんの古墳達

青塚古墳の周辺には、かつて多数の小さな古墳があり、「青塚古墳群」を形成していました。現在その多くは失われ、青塚古墳の南側にある鳥塚古墳からすづかと、西側の竹藪内にある花塚1号墳、2号墳、3号墳が残るのみです。これらの古墳は、4世紀後半ごろの築造で、青塚古墳はその盟主墳であったと考えられています。

また、周辺の状況を見てみると、本宮山の西側にある通称「楽田山」には、古墳時代後期につくられた数多くの小さな古墳が点在していたようです。本宮山の南西の丘陵帯には、蓮池古墳群はすが存在していました。昭和25年（1950）、昭和26年（1951）に1号墳、2号墳の調査がされ、2号墳からは小型の家形蔵骨器が発見されています。

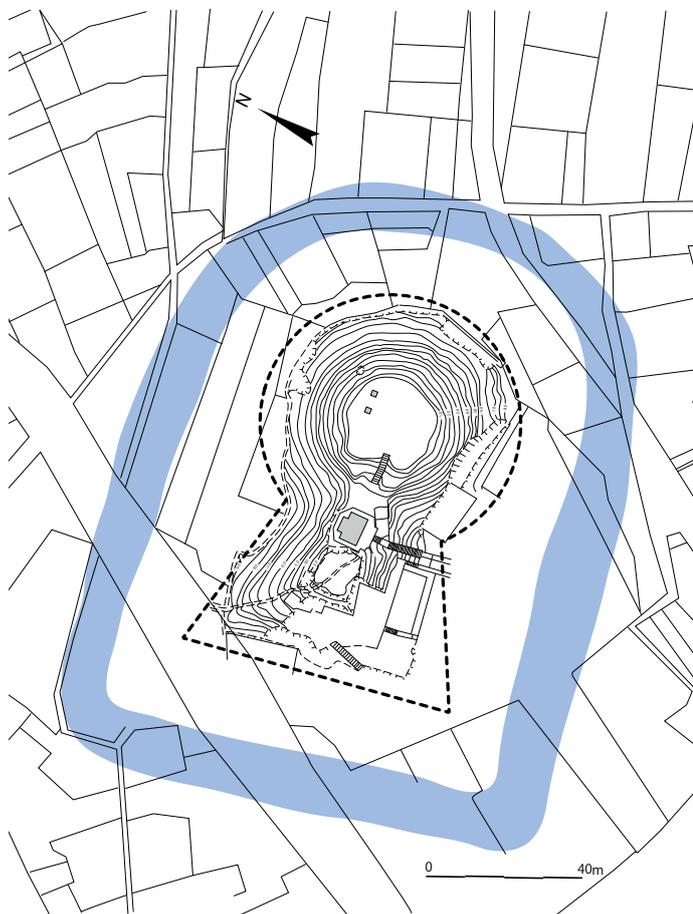


青塚古墳の春夏秋冬



妙感寺古墳

み
よ
う
か
ん
じ
こ
ふ
ん



妙感寺古墳地籍図

東之宮古墳が存在する白山平の山麓、丸山の一翁山妙感寺境内裏手にある前方後円墳です。墳長は約100メートル、高さが約7.5メートルです。周囲にはかつて盾形の周濠と外堤が存在したことが推測されますが、現状ではわずかに北西側に堤の痕跡が残るのみで、詳しいことは分かっていません。墳丘では土器・埴輪などは確認できませんが、川原石による葺石が認められます。



妙感寺古墳



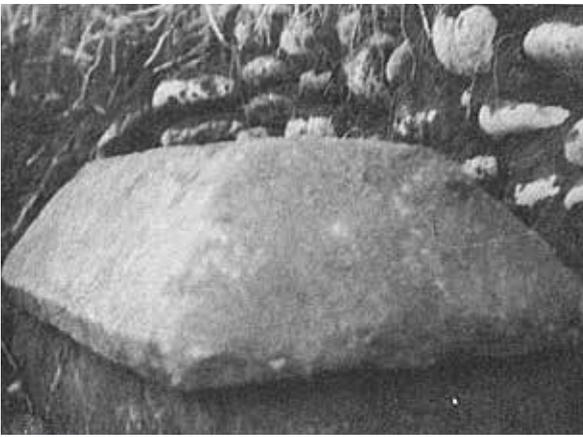
妙感寺古墳遠景



上野古墳群



岩神古墳の天井石



上野第一号墳の家形石棺



家形石棺内部の遺骨遺存状況



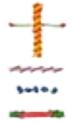
上野1号墳出土須恵器



上野古墳群

上野古墳群は、旧河道によりつくられた微高地上におおよそ50基ほどが存在したとされますが、現在は多くが破壊されてしまいました。上野古墳群は7基ほどが発掘調査され、河原石積の副室構造をもつ横穴式石室で、7世紀を中心とする古墳時代終末期の群集墳です。多くの須恵器や鉄器類、金環・管玉や勾玉などが見つかっています。ただ墳丘規模やその構造などはよくわかっていません。上野1号墳（機織塚・雁追塚）からは犬山東部丘陵に産する凝灰岩質の岩をくり抜いた家形石棺が発見されており、内部には人骨が残っていたとの記録が残ります。現在、石棺は犬山中学校に保管され、出土遺物は青塚古墳ガイダンス施設にて展示公開されています。

岩神古墳は、上野古墳群の中では珍しく大きな岩を天井石として築かれた古墳です。現在は区画整理事業に伴い、上坂町に置かれています。この大岩は伊木山まで続いている根なし岩であるという伝承があり、信仰の対象であったといわれています。





上野遺跡

上野古墳群関連



上野遺跡出土遺物



上野遺跡出土遺物（昭和42年）

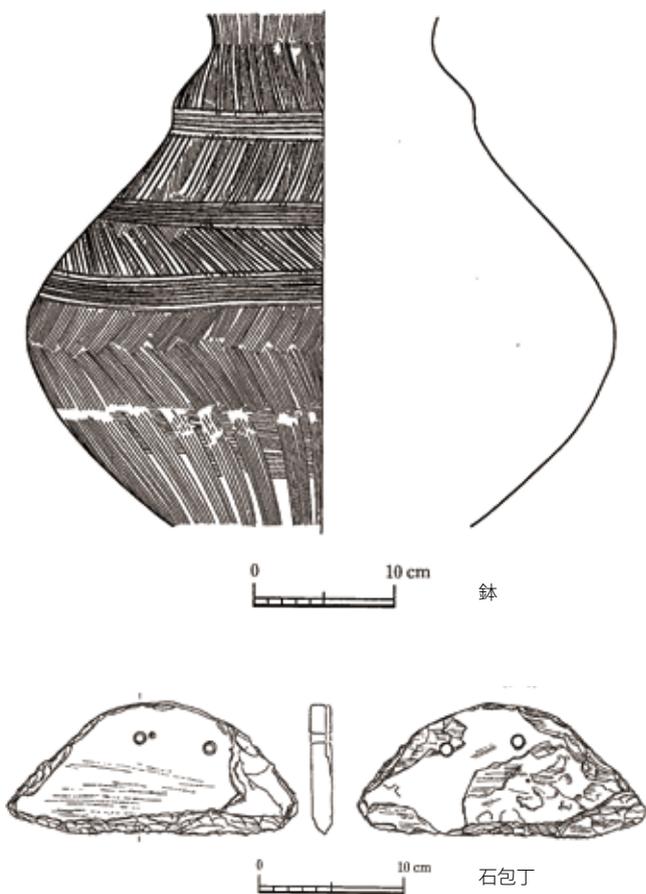


上野遺跡の周辺の風景（昭和42年）

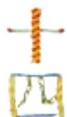


犬山最大の弥生遺跡 上野遺跡の魅力

犬山中学校の西側に広がる微高地には、犬山市域でもっとも大きな遺跡が存在します。標高40メートルに立地する上野遺跡です。遺物が散布する範囲は南北1キロメートルほどで東西が300メートルほどと推定されます。縄文時代早期の土器も見つかっていますが数は少なく、遺跡の中心は紀元前3〜2世紀の弥生時代中期から紀元後3〜4世紀の古墳時代前期までであったと思われます。数度にわたって発掘調査が実施され、それによると弥生時代中・後期に遺跡が大きく展開していく様子がわかります。遺物は土器のほか、打製石器や石鏃が大量に発見されています。現在は市街地となり、遺跡の面影はありません。



上野遺跡出土品実測図（愛知県史より）



白山神社古墳

須恵器と鳥形の
つまみ付高杯が
出土

白山神社の下に眠る 古墳が語ること

羽黒長者町団地から北に赤坂の信号を超える、台地から小さな谷間に出来ます。その西側の微高地上に安戸の白山神社が見えてきます。大正8年（1919）の拝殿改築の際に石室と多くの遺物が発見されました。墳丘は直径15メートルほどの円墳と考えられています。石室は4メートルほどであったと伝えられており、鳥形つまみ付の蓋を持つ高杯や長い脚を持つ壺など注目すべき豊富な須恵器類が見つかっています。おおむね二つの時期に区分できますが、6世紀前半期を中心に造られた古墳と考えられます。市内に残る古墳の中でも、もっともまとまった出土品を持つ古墳として重要です。遺物は青塚古墳ガイダンス施設にて展示公開中です。



🍃 依り代として植えられた松



🍃 祭文殿



🍃 境内拝殿





鳥形のつまみ部分拡大



白山神社古墳出土遺物



白山神社古墳出土鳥形のつまみ付高杯

天道塚古墳

壺や勾玉形の彫刻が施された家形石棺



羽黒小学校校庭に保存展示される家形石棺



幻の古墳群 石室が語る面影

羽黒西部の高橋地区には、かつて5基の古墳があったと言われています。その中でも、天道塚古墳は、屋根型の蓋を持つ石棺（家形石棺）が出土したことで有名です。天道塚古墳は、直径10メートルほどの円墳であったといわれていますが、現在は消失し詳細は不明です。

出土したとされる石棺の両側面には壺や勾玉形の彫刻が施され、蓋の上には蛇行状の溝があったとされています。そのような彫刻を持つ石棺は非常に珍しかったため、一躍有名になり、昭和2年（1927）には松坂屋で開催された『愛知県史蹟名勝天然記念物資料展覧会』に出展、「名古屋商品陳列館」に展示されました。

現在、石棺の上部は消失してしまいましたが、羽黒地域において貴重な資料であることから、羽黒小学校の校庭に保存展示されています。なお、かつては、高根洞周辺にも沢山の古墳が造られています。



出土当時の家形石棺（愛知県史蹟名勝天然記念物より）



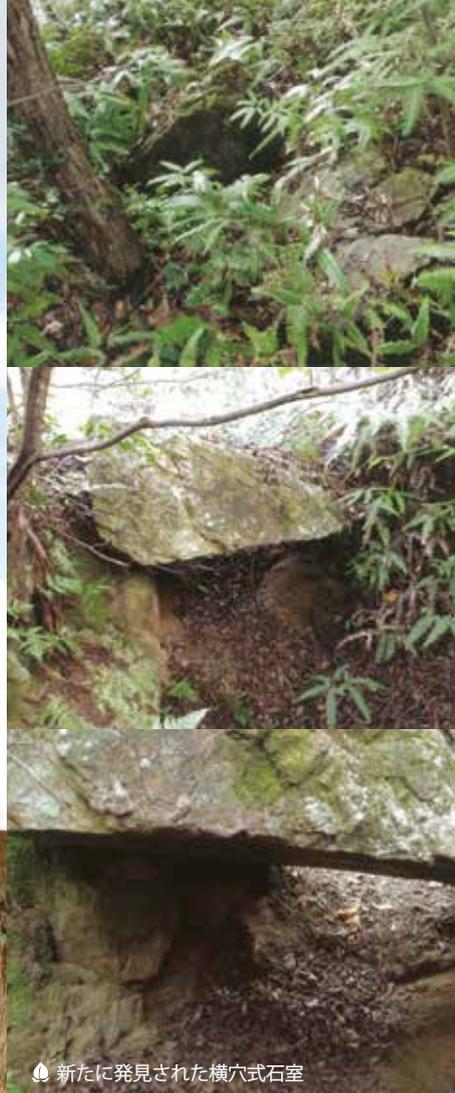
松坂屋での展覧会（愛知県史蹟名勝天然記念物より）

蓮池古墳群

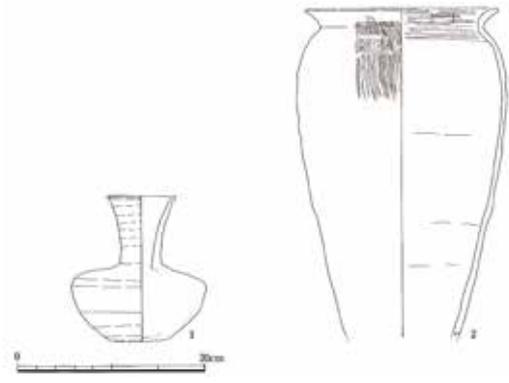
は
す
い
け
こ
ふ
ん
ぐ
ん



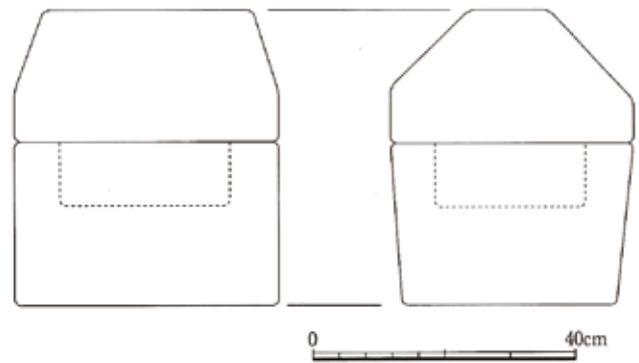
かつて蓮池古墳群があった辺りの風景



新たに発見された横穴式石室



出土遺物実測図（愛知県史 資料編4 考古4より）



家形蔵骨器実測図（愛知県史 資料編4 考古4より）



蓮池古墳出土須恵器

また平成28年（2016）には楽田地区の踏査が行われ、蓮池古墳群周辺で新たに3基の古墳が発見されました。

昭和26年（1951）に蓮池古墳群の横穴式石室内から火葬骨を収めた小型の家形蔵骨器が発見されたことから南山大学による緊急調査が行われ、わずかに蓮池2号墳の調査図面と写真の一部が報告されています。

現在では開墾のためほとんどが消滅しました。これらの古墳に関する記録はほとんど残っていません。しかし

昭和26年（1951）に蓮池古墳群の横穴式石室内から火葬骨を収めた小型の家形蔵骨器が発見されたこと

から南山大学による緊急調査が行われ、わずかに蓮池2号墳の調査図面と写真の一部が報告されています。



新たに発見された
蓮池古墳群周辺の古墳

蓮池古墳群は犬山市楽田蓮池に所在する小古墳群です。かつては20基程度の古墳があったとされますが、

現在は開墾のためほとんどが消滅しました。これらの古墳に関する記録

はほとんど残っていません。しかし

昭和26年（1951）に蓮池古墳群の横穴式石室内から火葬骨を収めた

小型の家形蔵骨器が発見されたこと

から南山大学による緊急調査が行われ、わずかに蓮池2号墳の調査図面と

写真の一部が報告されています。

また平成28年（2016）には楽田地区の踏査が行われ、蓮池古墳群

周辺で新たに3基の古墳が発見されました。

昭和26年（1951）に蓮池古墳群の横穴式石室内から火葬骨を収めた

小型の家形蔵骨器が発見されたこと

から南山大学による緊急調査が行われ、わずかに蓮池2号墳の調査図面と

写真の一部が報告されています。

また平成28年（2016）には楽田地区の踏査が行われ、蓮池古墳群

周辺で新たに3基の古墳が発見されました。

昭和26年（1951）に蓮池古墳群の横穴式石室内から火葬骨を収めた

小型の家形蔵骨器が発見されたこと

犬山市内



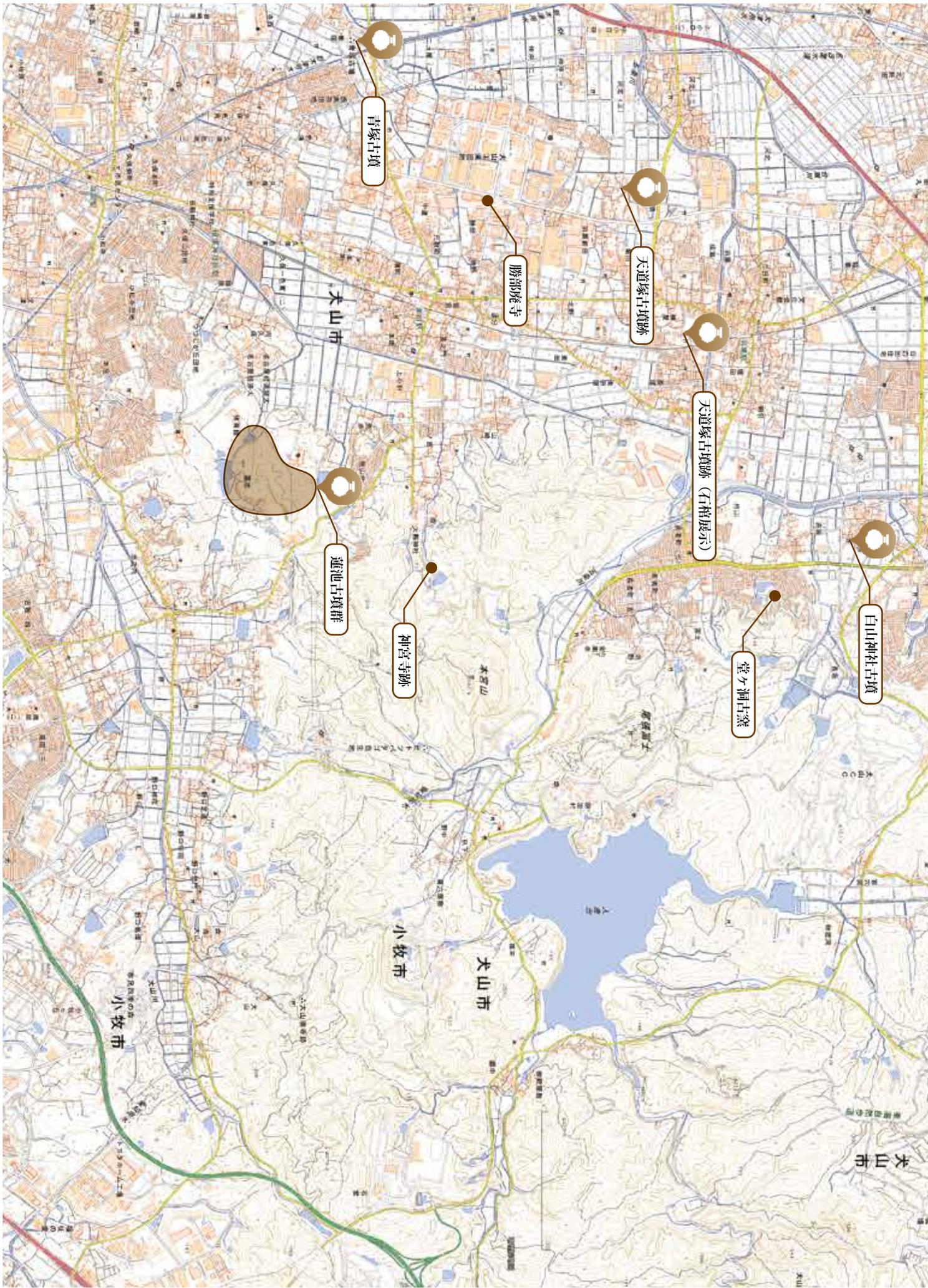
コップを持つツツ、
文化遺産に出会う旅に出発！

-  遺跡 史跡
-  交通
-  建築物
-  祭り
-  自然 景観
-  おすすめ

0 2 (km)

(縮尺：1/35,000)
(地理院地図電子国土 Web を加工して作成)





青塚古墳

勝部跡寺

天遼家古墳跡

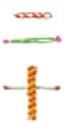
天遼家古墳跡 (石棺展示)

白山神社古墳

堂ヶ洞古塚

神宮寺跡

連池古墳群

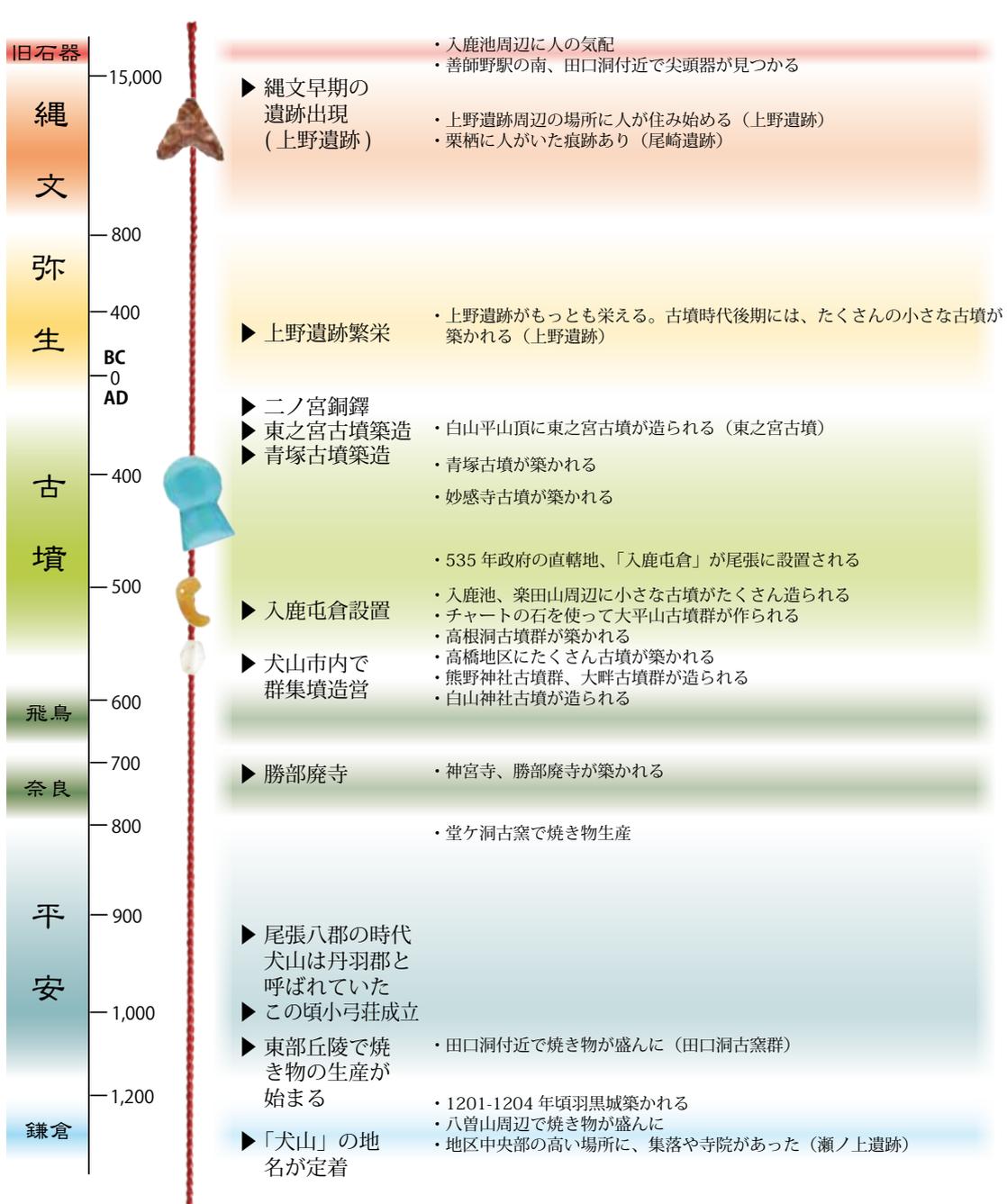


犬山たび

古墳の巻



犬山市内の遺跡年表（旧石器～鎌倉時代頃）



引用・参考文献一覧 (全巻共通)

- 愛知県犬山市役所秘書企画課 『犬山のむかしばなし』 犬山市役所 1983
 愛知県犬山市役所秘書企画課 『犬山のむかしばなし 第2集』 犬山市役所 1987
 愛知県犬山市役所 『犬山ものがたり』 犬山市役所 2004
 愛知県教育委員会 『中世城跡調査報告書1』 愛知県教育委員会 1991
 愛知県史蹟名勝天然記念物調査会 『愛知県史蹟名勝天然記念物調査報告 第10 史蹟其八 名勝其四 天然記念物其十』 愛知県 1927
 愛知県史編さん委員会 『愛知県史 資料編4 考古4』 愛知県 2010
 愛知県史編さん委員会 『愛知県史 別編 自然』 愛知県 2010
 犬山市エコアップリーダー 『犬山の巨樹・古木50選』 巨樹巨木調査グループ 2004
 犬山市教育委員会 『犬山市の文化財』 犬山市教育委員会 1993
 犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会 『犬山市史 史料編3 考古 古代・中世』 犬山市 1983
 犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会 『犬山市史 別巻文化財・民俗』 犬山市 1985
 犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会 『犬山市史 通史編上』 犬山市 1997
 犬山市教育委員会 『全市博物館構想 市民が創る生涯学習のまち』 犬山市教育委員会 2002
 犬山市教育委員会 『犬山城総合調査報告書』 犬山市教育委員会 2017
 犬山城白帝文庫歴史文化館 『図説 犬山城』 公益財団法人犬山城白帝文庫 2014
 木曾川学研究協議会 『木曾川とともに歩んだ各務原 犬山 岐南 笠松』 木曾川学研究協議会 2010
 佐藤重造・横山住雄 『各務原の歴史散歩』 石亀神社 1986
 横山住雄 『犬山の歴史散歩』 1991



たびにオススメの資料

犬山城下町について

『犬山城下町マップ』 犬山城下町の詳細マップ。犬山祭を見学する際は、携帯していると便利です。犬山観光案内所などで配布。

文化遺産カードについて：文中に、herica マークがついているものは、「文化遺産カード」がある文化遺産です。文化遺産を訪れてカードをたくさん集めましょう！
 ・「東之宮古墳」「青塚古墳」... 配布場所：青塚古墳ガイダンス施設 ※詳細は下記をご参照ください。

文化遺産を訪れて、カードを集めよう！
文化遺産カード

HP(<http://herica.net>)

犬山の最新情報を HP でチェック！
犬山文化遺産ナビ

文化遺産カードの楽しみかた

①文化遺産をたずねて写真を撮ろう。
 それぞれの地域に、様々な文化遺産が残っています。「カード一冊」に載っている文化遺産をたずねてみましょう。

②写真をもって、配布場所ですべてのカードをもらおう。
 撮影した写真（デジタルカメラ、ケータイの画像でもOK）を持って、「配布場所一冊」の各カード配布場所へ行き、「文化遺産カードをください」と伝えて下さい。

③文化遺産カードを通して、地域の文化遺産を肌で感じる体験をしてみませんか。
 ホームページには文化遺産の詳しい説明や写真、アクセスの方法などが載っています。ぜひチェックしてみてください。

④たくさん集めて、特製バインダーにカードをコレクションしよう。
 たずねた文化遺産を、いつでも手元でチェックできます。特製バインダーについては「バインダー」をご参照ください。

スマートフォンで文化遺産や史跡めぐり
犬山たび

文化遺産ナビとは、スマートフォンで利用できる犬山の文化遺産ナビシステムアプリです。どこにどんな文化遺産があるのか、またどんな方法で訪れればいいのか、簡単に調べることができます。



「犬山文化遺産ナビとは」

犬山市は愛知県の北西部にある豊かな自然や多くの文化遺産が残る地域です。犬山文化遺産ナビでは、犬山の魅力がわかるモデルコースや、見どころスポットをお伝えします。また、犬山市に伝わる物語もアニメでお楽しみいただけます。

犬山たび 「古墳の巻」

発行年

平成 31 年 3 月 22 日

発行

犬山市文化遺産活用実行委員会 (犬山市教育委員会)
 〒 484-8501

愛知県犬山市大字犬山字東畑 36 犬山市役所

企画・編集

ナカシャクリエイト株式会社
 〒 468-8533 名古屋市天白区井の森町 205 番地

【編集協力】

特定非営利活動法人 古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク

【写真協力】

中野耕司

※本書の内容、テキスト、画像の無断転載、無断転用を禁止します。

犬山たび 全6巻

「祭の巻」「街道の巻」「城・古戦場の巻」
 「古墳の巻」「物語の巻」「産業の巻」





犬山たむ